

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2019年版、4.0版) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)錦三丁目25番街区計画	階数	地上41F
建設地	愛知県名古屋市中区錦三丁目2501番1、2501番2、2514番	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	22,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、物販店、ホテル、等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2022年5月18日
敷地面積	4,866 m ²	作成者	
建築面積	4,620 m ²	確認日	2022年6月2日
延床面積	109,694 m ²	確認者	

外観/パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE3.0

★: S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 4.5

Q1 室内環境

Q1のスコア= 4.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 4.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 4.5

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 4.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.7

3 設計上の配慮事項		
総合 建屋外皮性能向上及び、高効率設備システム採用により地球環境への配慮をした建築物となるよう計画した。		その他
Q1 室内環境 建築材の遮音性能を高め、快適な居室空間形成に努めている。NC値設定および計算による確認を行い、目標値を確実に達成できるように計画した。また、断熱性能を高め室内の温熱環境向上にも努めている。	Q2 サービス性能 OAフロアの採用によるフレキシビリティの高い執務空間とした。十分な容量の保安電源を確保し災害時への耐用性・信頼性を高める。	Q3 室外環境(敷地内) 地域に対する配慮として、緑化エリアを久屋大通に向けて計画し、緑が広がることによる一体感を持たせる計画とした。隣地からセットバックし高層建物を計画することで周辺環境に対し圧迫軽減についても配慮している。
LR1 エネルギー 外皮性能の向上につとめ、室内負荷の低減を行っている。また、高効率設備システムの導入により、年間のエネルギー消費量の削減を図っている。BEMSの導入したエネルギーマネージメントにより、運用段階でのエネルギー消費量の検証を可能にしている。	LR2 資源・マテリアル 節水型衛生器具の採用や、リサイクル材の仕様を通して、資源の使用量削減に努めている。また、有害物質をできるだけ抑えることにより地球環境への負荷を抑える計画としている。	LR3 敷地外環境 卓越風を考慮した気流シミュレーションにより周辺地域に配慮した計画としている。また基準値を大幅に下回る値の大気汚染量の排出量とし、地域環境に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称) 錦三丁目25番街区計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.5
LR1	エネルギー	3.6	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				4.1
Q3.1	生物環境の保全と創出	4.0	0.091577003	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	有	0.0091577
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	4.0	0.045788502	
3. 循環型社会				4.3
LR2.1	水資源保護	4.2	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	4.3	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	4.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.5



2. 自然共生

評価点 = 4.1



3. 循環型社会

評価点 = 4.3



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。